

じゅんじょやようすを考えよう（2年）

「生きものふしぎ図かん」を作ろう

●指導目標

◎文章の全体と部分の関係を考えながら、順序に気をつけて読んだり書いたりする。

○生き物についての必要な事柄を集め、その順序を考えながらわかりやすい文章を書く。

●教材について

本単元は、児童の知りたいという欲求や知ることの喜びを大切にしながら学習を進めたい。『さけが大きくなるまで』を学習し、生き物や生命の不思議さ・神秘さに驚き、大きな興味をもち、『「生きものふしぎ図かん」を作ろう』では、他の生き物へと視点を広げて書く活動に展開していく。調べる過程では、必要な事柄をカードに記入し、そのカードを手がかりにしながら簡単な組み立てを考えて、絵と文章でわかりやすいオリジナル図鑑の1ページを作成する。

オリジナル図鑑を作るとき、どのような順序で説明したらわかりやすい文章になるかを考えて書くことが大切である。自分が調べた生き物の不思議さの秘密が、うまく伝わるかを意識して学習を進めさせたい。

できあがった図鑑を読み合って、それらから新しく知ったことなどを話し合い、生き物への関心と表現することの喜びを、さらに大きくもたせようとしている。

（1）掲示板の活用

まず、「生きものふしぎ図かん」のために、掲示板を設けたい。本文にある、「ありじごくは大きくなると『うすばかげろう』になるから…」というようなアドバイスは、この段階の児童にとって必要である。調べ方・調べる言葉や、何のどこをどのように調べればよいかというような疑問をもつ児童がいると思われる。「情報をください」ということで掲げておくと、それについてのアドバイスを付箋を貼って答えるという形をとっていききたい。それは2年生だけでなく、高学年の児童や先生方を巻き込む形で行っていくと効果的であると考えている。

（2）図鑑を調べ、自分の1ページを作ること

図鑑の中から自分が調べたいことを探し出すことは、2年生にとって難しい。その生き物について書かれているページを丸写ししてしまうことが多い。自分の調べようとしている疑問を常に念頭に置く工夫が必要になる。調べる段階では、毎時間自分の疑問（テーマ）を確認してから活動を始めたい。たとえば、自分が調べていることは、うさぎのことなら何でもよいのではなく、うさぎの耳が長いわけであることをきちんとおさえさせたい。

図鑑の1ページを作るときには、ひきつける題名をつけること・絵と文章とを組み合わせる表現することをきちんと指導する。その文章も、箇条書き・数字を使って順序性を示した記述・説明的な文章・話し言葉の表現・矢印による表現など、自分の1ページを効果的に表現するために工夫することも学ばせたい。また、横書きのメモにも慣れさせたい。

作業の遅い児童や支援を要する児童については、調べる段階で書き込んだカードを、切り貼りして図鑑を作成してもよいことにしたい。

（3）できあがった「生きものふしぎ図かん」の活用

学級内でお互いの読み合う活動をする。それぞれのページのよさに気づかせながら、生き物への関心を大きいものにしたい。

他学年にもその図鑑を見てもらえるような工夫をしたい。また、掲示板でのアドバイスのお礼として、自分の調べたことを掲示してアドバイスをくれた人たちの目に触れるようにすることも考えられる。この時、投票をしてもらって、客観的な評価を得ることができる。

●学習指導計画（全12時間）

時	過程	学 習 活 動	留意点、評価規準及び方法
第1時 第2時	課題をつかむ・見通しをもつ	○「生きものふしぎ図かん」について知り、どんな生き物のどんな不思議を調べたいかを書く。 ○「生きものふしぎ図かん」の作り方・手順・計画について話し合う。	○意欲がもてる雰囲気作りに努める。題材例を用意する。その都度掲示板に情報を求めさせ、アドバイスを付箋でつけさせる。 関：調べたい生き物の名前と理由を書こうとしている。（ノート） ○本文を参考にしながら、図鑑を完成させるまでの手順や計画について話し合わせる。 話聞：見通しをもってはっきりと話し、友だちの発言を最後まで聞いている。（発表・観察）
第3 （本時） ～ 5時 第6 ・7時 第8・ 9時	表現の工夫	○自分の調べたいことを決め、図鑑で調べたことをカードに書く。 （横書きメモの書き方……教科書 P.88 参照） ○「ありじごくのすのふしぎ」の組み立てと特色を読む。 ○カードやアドバイスをもとに組み立てを考え、絵と文で自分の図鑑のページを書く。	○自分のテーマに直接かかわることだけをカードに書き込ませる。 書：内容、書き方に注意してわかりやすく書いている。（カード） ○順序を考えながらわかりやすい文章を書いていることに気づかせる。箇条書き・図示など視覚的な工夫にも気づかせる。 読：時や場所、大きさや様子を表す言葉の使い方に気づく。（発表） ○例を参考にしながら組み立てを考えさせる。 書：組み立てを工夫し、情報を選んだりカードを並び替えたりして書いている。
第10・ 11時 第12時	表現を高める・振り返り	○書いた図鑑を読み合って、新しく知ったことやそのわかりやすさについて話し合う。 ○掲示板に図鑑を掲示し、「わかりやすさ投票」をする。	○内容と表現の両面から、お互いの図鑑を読ませる。 書：友だちの作品の上手なことを見つけている。（発表） ○簡単なカードを用意し、その図鑑に投票した理由を書いてもらう。順位にとらわれなくて、客観的な立場での意見を大切にする態度をとらせる。 関：今回の学習を振り返り、次の学習に生かしたいと考えている。（観察）

●本時の展開（本時3／12）

目 標

・例文「ありじごくのすのふしぎ」の組み立てを知り、説明の順序を大事に考えて自分のカードを並べることができる。

●展開例

学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1. 本時のめあてを確認する。		
「ありじごくのすのふしぎ」の説明で上手なところを見つけて、カード並べの参考にしよう。		
2. 音読する。	○文章だけではなく、絵・図も大切に扱わせる。	○内容を読み取ることの苦手な児童には、みんなの発表したことで理解させる。
3. 初めて知ったこと・びっくりしたことを発表する。	○発表された順序に、黒板に板書していく。	
《板書例》 はじめて知ったこと（びっくり） ・ありじごくがすのそこにかくれて、小さな虫をとること。 ・うんどう場にもいること ・ありじごくが後ろ向きで、なをほること ・すの大きさは五センチメートルぐらい …		
4. 例文と板書とを比べる。	○思いつくままに説明すると、わかりにくくなること、一つ一つがばらばらな情報であることに気づかせる。	書：説明の順序が大切であることに気づく。（発言）
5. 例文の説明の順序を確かめ、その順序のつながりを考えて発表する。	○準備しておいた3枚のカードの間に言葉を入れて、つなげて話させる。	○つなげる言葉が拙くても、よいこととする。 《発言例》 ・ありじごくを見つけたから調べてみたら、すの作り方がわかった。すのそこにかくれて、えさ（小さい虫など）をつかまえる。
《板書例》 ありじごくのすのふしぎ ①ありじごくを見つけたこと ← ②すの作り方 ← ③えさのつかまえ方		
6. 自分のテーマを確かめる。	○自分のテーマを意識づける。	
7. 自分が書きためたカードをどのように組み立てるか考え、机の上に並べる。	○カードを使って、間に言葉を入れて説明をつなげながら並べさせる。 ○決めたものは番号をつけさせる。	書：説明の順序を大切にしてい、カードを選び、並べている。（カード） 関：間に言葉を入れてつなげようとしている。（観察）

●教材学習中に活用したいカード・用紙

(1) 掲示用カード

☐	☐	☐	☐	教えてください 名前
その他（	いい本はありませんか。	知りたいのは（	何か知っていることはありませんか。	
）		）です。		

ぼく しらべたい
 が
 わたし しらべている

(2) 図鑑カード

オリジナル 図かんカード 名前 ＊テーマ「 （しらべた本・ページの記ろく） 」
--

(3) 評価カード

どうひょうようし 投票用紙 ＊あなたがよいと思った図かんはどれですか？ ＊その理由をおしえてください。 （あてはまるものに○） ・わかりやすい ・見やすい ・せつ明のじゅんじょがよい ・くふうされている ・おもしろい ・絵がこうかてき ・その他（ ）
--

オリジナルずかんカード テーマ「

」

しらべた本・ページのきろく

投票用紙

あなたがいちばんよいと思った^{ずかん}図鑑
はどれですか？

その理由（あてはまるものに○）

わかりやすい

おもしろい

くふうされている

絵がこうかてき

その他（ ）